

●ディスカバーネイチャー in かさまつ

<地域課題>

恵み豊かな木曾川に抱かれ川と共に栄えた笠松でありながら、川の恵みを受けた笠松の自然については町民にも十分には知られていない。笠松の自然を広く住民が認識することができれば、郷土愛の醸成や自然の中に息づく「いのち」のつながりへの気付きとなり、道徳のまち笠松の発展にも貢献できるものと考えます。

<活動内容>

笠松町内での、生き物の情報収集並びに調査。生き物の様子を撮影し、紹介DVDにまとめた。「名鉄ハイキング」と「笠松マルシェ」、「まちづくり研究会いいね・笠松」において、DVDを上映し、笠松町の自然を紹介した。また、笠松町親子教室において、DVDを活用した笠松の野鳥についてのレクチャーと、みなと公園での野鳥観察会を実施した。参加者は、DVDで紹介された野鳥を実際に観察することで、笠松の自然の豊かさを実感することができた。

<今後の展望>

DVDの内容を充実させるための情報収集と調査・取材活動。

収集したデータ、映像を町民に還元してゆく活動を計画していく。学校におけるいのちの教育に資することができると考えられるため、特に子供を対象にした上映、さらには高齢者等の施設での上映などを検討していく。



親子教室「みなと公園での野鳥観察会」

●笠松インフォメーション from OKAMOTO

<地域課題>

笠松町には県立岐阜工業高等学校がある。「笠工（かさこう）」の名で町民に親しまれている伝統校である。毎年、町内のイベントでミニSLを走らせたり、笠松駅のイルミネーションを企画したり、地域貢献活動も活発に行われている。しかし、大半の生徒は町外在住で、日常的に地域の人々とのつながりは希薄である。毎日の登下校で笠松に足を運んでいても、ほとんどの生徒は笠松町のことをよく知らないでいる。3年間笠松に通う生徒たちが、より笠松を身近に感じる居場所をつくることができれば、卒業後も町とつながりをもてるのではと考えた。

<活動内容>

日常的に地域と高校生のつながりのある場所を作り、学校と地域の情報交流の拠点とする。日中は地域の方の憩いの場や情報を共有できる場に、放課後は学生が電車を待ったり、友達とおしゃべりしたりする場に。時間帯は違うが、同じ場所を共有することで、地域住民と高校生のゆるいつながりのきっかけの場所にしたい。

岐阜工業高等学校の近くに位置する「まちの駅 フラット岡食」の好意で、店舗だったスペースを活用できることになり、活動グループメンバーの岐阜工業高等学校の建設工学科の生徒中心に改装作業を行った。平成28年度中には壁と天井に新しいクロスを貼り、電気の配線と照明を整えることができた。平成29年度になり、高校生メンバーは次の代に引き継がれて活動は続いている。スペース内に大型のブラックボードと建物の外壁に掲示板を設置して、情報交流拠点としての機能を強化。また、場所を知ってもらおうとともに身近に感じられるように、作家の協力で建物壁面に馬のデザインを配置し、壁画ワークショップを開催した。

<今後の展望>

高校生と地域住民のゆるいつながりの拠点として育てていきたい場所である。高校生と住民が互いに情報を発信することで、町のイベントに高校生が足を運んだり、高校の部活の試合を住民が応援したりと少しずつ距離が縮まればよい。高校生が活動を引き継いでいることから、継続的な展開が期待できる。高校生にも住民にもこの場所を知ってもらい、活用していくことが第一である。



フラット岡食の内装作業の様子



馬の壁画ワークショップの様子

生涯学習コーディネーター 内田 晴代 先生より

生涯学習や社会教育の観点から考える「まちづくり」は、私は「人づくり」だと考えます。学びを通しての仲間づくりや活動、これらがいわゆる「まちづくり」に繋がっていくのだと思います。住みよい地域社会づくりを進めるにあたり、同じ課題を共有する仲間が活動をしていくことで、その課題解決への糸口を探していく過程が「まちづくり」なのです。

高齢者が自立し元気で過ごすまち、同世代が集い悩みの相談や情報交換ができる場、環境を守り次世代に引き継いでいけるまち、高校生の居場所と多世代交流ができる場づくり、それぞれが感じる課題に自分ごととして取り組んだこの過程は確かに「まちづくりびと」といえるでしょう。今後は、それぞれの活動を継続発展させると同時に、グループ間のコラボや「まちづくりびと」の拠点・交流の場づくりなど期待しています。